縮む鉄路と消えゆく名物蕎麦

北見医師会
オホーツク勤医協北見病院
武田（たけだ）　雄太（ゆうた）

この度北海道医師会より執筆を依頼されたので、昨今思うことについて書かせていただく。

2022年は本邦に初めての鉄道が開業して150年、民営化から35年となる。病院で共に働く周囲のスタッフも民営化以後の年代生まれが増えてきた。

1975年生まれの私は物心ついたときからの鉄道ファン。医科大学に進学してからは夏休み、春休みなど長期の休み期間には「青春18きっぷ」を携えて国内あちこちへ出かけていた。就職してからは遠出できなくなったこともあり、週末を中心に北海道内各地を移動している。

出歩いたら腹が減るもの。広大な北海道は各地で味わう味覚も魅力の一つ。乗り歩きと撮り歩きの一方で、北海道内各地でさまざまな名物も味わってきました。そんな旅の途上、上川管内音威子府村で出合った名物の「黒い蕎麦」は蕎麦の実を皮ごとひいてつくるため、見た目は真っ黒な太麺と卓絶した風味が特徴。一度で虜となり、近年はふるさと納税返礼品目当てで定期的に取り寄せて自宅で味わっていたが、製造元の店主が高齢となり引退。事業承継もなされず８月末で廃業となった。本稿執筆中の９月１日付北海道新聞朝刊には最後の一杯を求めて行列ができ、２時間余りで完売になったとの記事があった。前後して同じ道北エリアに所在する留萌本線（全長50.1km）も全線廃止となることが報じられた。まず留萌～石狩沼田間が2023年３月までに廃止、地元住民の要請を受けて残る石狩沼田～深川間も2026年３月に廃止されるという。半世紀前、総延長4,000km余りだった北海道内の鉄路は民営化直後の1987年４月時点で3,200km弱と２割減。過疎化に伴う利用客の減少と道路整備が進んだことで平成に入ってからさらに縮小。平成が終わらんとする平成30年（2018年）時点で2,552.0kmになっていた。実に30年余りでさらに２割縮小したことになる。この年の７月、JR北海道は、赤字の５路線５区間（311.5km）を廃止する方針を固めた*。全路線の営業距離の１割強に相当する距離で、2021年３月までに夕張支線、札沼線、日高本線と３路線３区間が消滅している。

現在終着駅となっている留萌駅待合室には今や希少な存在となった駅そば店が営業しており、ご当地ならではの鰊蕎麦を味わうのが楽しみであったが、路線廃止とともに廃駅となればこちらも記憶の彼方の味になってしまう。人口減少と地方の過疎化とともに年々縮む鉄路と消えゆく各地の名物。朝晩めっきり冷え込み日々日没が早まり夏の終わりを実感する中、北海道が置かれた現状に寂しさを感じている。

（＊参考）朝日新聞デジタル2018年７月22日「テツの広場」

留萌駅名物の鰊蕎麦と鰊おやこ弁当（2021年３月）